

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北陸)	◎	衣料品専門店 (店舗運営)	来客数の動き	・マスクなど新型コロナウイルス対策商品の需要が高く、3か月前より来客数が6割増加している。
	◎	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・家族やカップルでの利用は新型コロナウイルス発生前に戻ったが、法人や県外団体の利用がないため、例年の70%ほどの来客数で推移している。
	◎	通信会社（営業 担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響が大きいと思っていたが、来客数が思いの外あり、販売数も例年並みに売れている。
	◎	通信会社（役 員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が解除され、ほぼ通常どおりセールス活動ができ、放送、通信共に順調に契約数が増えている。
	○	商店街（代表 者）	来客数の動き	・若者の人出は戻りつつあるようにみえるが、その他の人出はまだまだ戻っていないようにみえる。飲食店もランチはにぎわっているが、夜はまだまだである。
	○	百貨店（販売担 当）	来客数の動き	・4～5月は新型コロナウイルスによる休業の影響があり、それに比べると今月も来客数は増加している。しかし、前年同月比では85%程度と苦戦である。例年、セール期間は県外の大型店やアウトレットへ客が流れる傾向があるが、都市部と県外で感染者が増加したため、県外での消費が減少し、県内消費が増加している可能性がある。しかし、購入する商品は限定的で、必需品の購入が継続している。また、気温がやや低めのため、盛夏商品の購入がやや低迷している。
	○	コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響は少しずつ薄れてきているものの、直近の天候が非常に悪く、景気の下押し要因となっている。
	○	コンビニ（店舗 管理）	来客数の動き	・4月から比べれば持ち直しているが、夕方以降の来客数は大きく前年割れの状況である。
	○	乗用車販売店 (従業員)	来客数の動き	・特に週末の来客数が以前の状況に戻りつつある。
	○	住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・今月は新型コロナウイルス感染症の影響が比較的少なく、収束傾向にあったことに加え、政府による各家庭への特別定額給付金が消費を促した背景がある。
	○	観光型旅館（経 営者）	来客数の動き	・県民宿泊プランのおかげで週末を中心に予約が入っている。しかし、新型コロナウイルスの感染者が増えたと途端にキャンセルが増え、予断を許さない状況にある。
	○	旅行代理店（所 長）	来客数の動き	・前年の売上には及ばないが、地域での需要喚起対策やGo To Travelキャンペーンの開始により問合せが出始めている。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・4月の最悪の状態からはやや良くなっている。売上は最悪だった80%減から40%減まで回復している。7月後半からは観光客が増えてきている。
	○	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・3か月前は旅行に出掛ける客が全くいなかったが、現在は地元客を中心に国内客がやや旅行に出掛け、利用がある状況である。しかし、前年同期比でみるとまだまだの状況である。
	○	パチンコ店（経 理）	販売量の動き	・3か月前は、新型コロナウイルスの影響による自粛や休業要請があったが、現在は解除されている。
○	競輪場（職員）	来客数の動き	・特別定額給付金の給付があり、来場者数の増加につながっている面もあるが、限定的な効果と考えるため、来場者数の上向きが継続していくかは疑問である。	
○	その他レジャー 施設 [スポーツ クラブ]（総支 配人）	お客様の様子	・新型コロナウイルスへの不安から、休会の延長、休会や退会の手続きがまだまだ出ているが、スポーツクラブを利用したいという思いは多く見受けられるようになってきている。	

○	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響による活動自粛が終わり、6月下旬より新規住宅地の販売が開始できたことで住宅の受注が進んでいる。自粛期間に動かなかった客も動き出したことで、需要は戻ってきた感じがする。
○	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響から少しずつ客が動き始めている。
○	住宅販売会社 (営業)	お客様の様子	・住宅ローン控除の延長対象期限に間に合わせるため、9月末までの請負契約を考えている客の動きが活発化している。
□	一般小売店〔鮮魚〕 (役員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響は表面的には薄らいできている。全国的に感染者は増えているが、余り意識していない人が多いようである。4連休は当店の市場に恐ろしいほど観光客が来た。ソーシャルディスタンスなど全くとっておらず、見ていて怖いほどである。
□	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・前月にお中元及びクリアランス需要があった反動で今月は苦戦している。23～26日の4連休は期待した数値には届かなかった。前半の2日間はGo To Travelキャンペーンの効果もあり久々ににぎわったが、後半は新型コロナウイルス感染者増加の報道があり、外出を控えた人が多く失速した。月間の売上は前月よりマイナス幅が拡大し、前年比でマイナス8%の見込みである。
□	コンビニ(店長)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響を最大限受けていた3か月前同様、前年に比べてあり得ないほど売上、利益共に減少している。6月には一度落ち着き、売上が回復基調になってきたが、再度首都圏での感染拡大に伴い、売上が激減している状況である。
□	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・7月に入り少しずつ回復していたが、新型コロナウイルス第2波らしきものの影響で客足が遠のきつつある。
□	家電量販店(店長)	単価の動き	・梅雨が明けず、エアコンなど夏物商材が売れない。
□	家電量販店(本部)	販売量の動き	・直近は天候の影響で、エアコンの実需が上がってきていないので厳しい状況である。
□	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・販売量は3か月前と比べると多くなっているが、前年同時期と比べると大変低い状態であり、景気の状況はまだまだ変わっていないと考える。
□	自動車備品販売店 (役員)	お客様の様子	・集客面では多少回復傾向だが、高額商品の動きは依然として悪く、洗車用品やメンテナンス用品等の低単価商品の購入で占められている状況が、ここ何か月も変わっていない。
□	その他専門店〔酒〕 (経営者)	販売量の動き	・7月はお中元の時期だが、お中元は全く駄目である。地域の祭りや他のイベントなども全て中止になったことから、売上が減ってしまった状態である。
□	スナック(経営者)	来客数の動き	・なかなか以前のように戻らず、なじみ客の多くは年齢層が高いこともあり、一度も顔を見せない状態が続く。新型コロナウイルス第2波となっている今は、赤字幅が増えないように願うだけで、先々が見通せない。
□	美容室(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響か、来店サイクルが延びて来客数が前年比で5%ほど落ちている。ただし、個人の購買意欲は活発で、商品売上は5%ほど伸びている。
▲	商店街(代表者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスによる影響が大きく、組合の賦課金の減免依頼が多い。飲食店はもちろんのこと、衣料関係も我慢している状況である。百貨店の営業再開と7月後半の大型店開業などにより、商店街両端の入口に核となる店舗ができたため、回遊性が期待できる。通行量は目に見えて増加してきたが、売上に結び付くのかこれから様子見である。
▲	一般小売店〔書籍〕 (従業員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響はいまだに続き、生活必需品の買物以外は外出を控える様子がみられ、来客数は激減している。

▲	スーパー（店長）	単価の動き	・在宅率アップに伴う需要の増加や、天候不順による生鮮食品の相場高傾向により単価が上がっており、販売量や来客数に影響が出ている。
▲	スーパー（店舗管理）	来客数の動き	・単価は上がっているが、来客数や購買点数自体は伸びていない。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の減少に加え、レジ袋有料化で客単価も下がっている。
▲	衣料品専門店（経営者）	それ以外	・大都市を中心に新型コロナウイルスの感染者は全国的に増加しており、商店街の来訪者は減ったままである。
▲	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・来客数が戻りつつあったが、最近の首都圏での新型コロナウイルス感染拡大により以前に戻ったような感じである。
▲	その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・新型コロナウイルス第2波への警戒感により、6月から復調してきた来客数が停滞している。また、天候不順により衣料品の動きも悪い。
▲	一般レストラン（店長）	販売量の動き	・来客数は少ないが、テイクアウト販売で補っている。
▲	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・6月末から東京の新型コロナウイルス感染者の増加に伴い、一旦上向きになっていた消費者の外食需要が、7月は停滞又はやや下向きに推移している。7月23～26日の4連休とGo To Travelキャンペーンにより、人の動きは多くあったが、それにより更に新型コロナウイルスの感染が地方都市にも拡大し続けている。消費者マインドが外出や外食を自粛する方向に向いていると感じる。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言解除直後は、しばらく夜の飲食店関係で動きが出たが、ここに来てまた静かになっている。Go To Travelキャンペーンについては、まだ少ししか動きがない。
▲	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・契約数も厳しいが、契約後の打合せによる仕様変更で契約金額の増額幅も小さくなってきている。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・7月23日からの連休前半は来客数も多く、久しぶりににぎわいを感じることはできたが、連休後半の2日間は静かな週末であった。連休自体の売上は前年並みだが、月のトータルで考えると相変わらず厳しい状況である。ネット通販は相変わらず好調に推移している。
×	一般小売店 [事務用品]（店員）	お客様の様子	・店舗部門は来客者の減少により売上が下がり、営業部門は客先への訪問が難しく苦戦している。
×	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染防止で、人が集まるセレモニーや会合などが個人、企業を含めて軒並みなくなり、関連需要のお出掛けや記念品、引き出物などが低迷している。
×	スーパー（店長）	お客様の様子	・景気悪化が予想されるなかで、購入点数が落ち込んでおり、必要最小限の買物のみにとどめている様子である。
×	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・特売品の購入が以前より増えている。
×	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数が減っている。
×	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・5月は全面休業し、6月5日より営業を再開し、8日より県内宿泊割引の発売を開始した。6月19日に国内移動の全面解禁で予約が上向いたが、売上は前年比で29%である。
×	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門の売上は70%減、レストラン部門の売上は60%減、宴会部門の売上は90%減である。首都圏の新型コロナウイルス感染拡大で、更に先がみえなくなっている。
企業	◎	—	—

動向 関連 (北陸)	○	食料品製造業 (経営企画)	受注量や販売量 の動き	・緊急事態宣言が出ていたときと比較して業務用の需要が確実に回復傾向にある。とはいえ新しい生活様式が唱えられるなか、完全に元に戻るだろうとは考えていない。
	○	精密機械器具製造業(役員)	受注量や販売量 の動き	・4～5月に比べると、6～7月は予想より若干早いペースで回復基調に戻ってきた感じではあるが、ここしばらくの新型コロナウイルス感染者急増の影響が心配である。
	○	建設業(経営者)	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大による影響を最も受けていない業種である土木工事業を営む当社においては、仕事への影響は皆無である。知り合いの飲食業者や旅行者においては、感染が始まった4月の苦境に比べると少し明るさが戻ってきている。
	○	通信業(営業)	受注量や販売量 の動き	・前月に営業活動を再開した結果として、今月の売上高は前年同月比の70%まで回復している。
	○	新聞販売店[広告](従業員)	受注量や販売量 の動き	・新型コロナウイルス禍のさなかにあった以前よりという意味では、やや良くなっている。
	□	繊維工業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・繊維業界は各企業によって状況が違い、業種や資材の用途によって差があると考えるが、非常に厳しい状況である。
	□	一般機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量 の動き	・欧米市場、国内市場共に新型コロナウイルス感染の影響で受注が取れない状況が継続している。当社は金曜日を一時帰休とし、生産調整を実施している。
	□	不動産業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・個人客も法人客も、購入者がほとんどいないという話をいろいろと聞いている。
	□	司法書士	取引先の様子	・各種助成金請求のための書面作成の依頼が多いが、新しい事業のための不動産取得、会社設立の依頼も少なくない。
	▲	プラスチック製品製造業(企画担当)	受注量や販売量 の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による自粛や経済活動の停滞により、個人消費のみならず企業にも大きな影響が出ており、受注、販売共に厳しい状況が続いている。
	▲	税理士(所長)	取引先の様子	・最近では業種によって非常に厳しい状況がはっきりしている。観光業、飲食業、アパレル業、店舗での販売業は非常に厳しいものがある。生活必需品のスーパーマーケットなどは大丈夫だが、アパレルなどは非常に苦戦しているようである。製造業は業種によってばらつきがある。良いところもちろんあるが、自社の取引先をみると新型コロナウイルスの影響に振り回されている状況である。
	×	建設業(役員)	それ以外	・新型コロナウイルスの感染が依然として拡大しており、先行きの見通しが悪化している。
	×	金融業(融資担当)	取引先の様子	・取引先の資金繰り安定化は一段落してきたが、飽くまで一時しのぎの状況である。飲食等の小売業者は少しずつ回復してきたとはいえ、前年比では大きくマイナスである。仕入減少、在庫圧縮の動きから、商取引の規模は小さくなっている。
	雇用 関連 (北陸)	◎	—	—
○		*	*	*
□		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・求人の動きに変化はないものの、求職者の数が多少増えているように見える。
□		新聞社[求人広告](営業)	求人数の動き	・県内の有効求人倍率が大幅に低下している。事業主都合の離職者が増えている。
□		新聞社[求人広告](担当者)	求人数の動き	・慢性的な人手不足が続く清掃や介護など一部職種の求人需要は一定数あるものの、全般的には先が見通せない状況下で積極的な採用の動きは見受けられない。
□		職業安定所(職員)	求人数の動き	・6月の有効求人倍率は1.26倍で前年同月比0.73ポイントの大幅な減少となっている。産業別の前年同月比では、製造業で44.8%減、卸売、小売業で61.0%減、宿泊、飲食サービス業で56.2%減となっている。一方で、建設業、医療福祉業は前年同月比で増となっており、人手不足が強まっている。
□	職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス感染症の影響による企業の採用意向は一部厳しさが緩んだが、依然として完全回復には至っておらず、雇用調整も続いている。	

▲	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響で企業の営業活動の減少による業績悪化は避けられず、雇用についても採用を差し控える動きが拡大しつつある。
▲	学校 [大学] （就職担当）	求人数の動き	・求人票の受付数が前年同時期に比べて2割程度少ない。
×	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・発行1回当たりの求人数が50件ほど減った。